

令和5年度普及活動アルバム

長野農業農村支援センター

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、あらゆる経済活動が回復してきた令和5年度、農業農村支援センターでは従来からの「直接農業者と接する」活動手法に軸足を戻して業務にあたりました。主な活動内容は、重点課題である「もも産地の災害復興支援」と「ピーマンの生産拡大」をはじめ、新規就農者や定年帰農者など多様な担い手の確保育成や、全国トップクラスの果樹産地づくり、地域の特色を活かした農産物の安定生産等についてです。

ここに関係する皆様のご理解とご協力に感謝し、活動の一部をご紹介します。



【通年】

各種セミナーの開催

果樹及び花き栽培の知識と技術習得を支援するため4つのセミナーを開催しました。

「グリーンセミナーぶどう講座」

受講者 44名 8回

「アグリセミナー（りんご）」

受講者 13名 8回

「須高果樹セミナー（りんご・ぶどう）」受講者 51名 11回

「長野地域フラワーセミナー」

受講者 9名 7回



【5月】

アスパラセミナーの開催

果樹産地の農閑期や春先の収入を確保するため、春どりを中心としたアスパラガス栽培技術向上を目的とした「須高アスパラセミナー」(全5回)を開催しました。



**【7月】
「カイゼン手法」による
ぶどう栽培の効率化**

ぶどう栽培における不安定な秀品率に悩む農家を対象として、トヨタ式カイゼン手法を用いた摘粒作業の効率化について検証しました。要因となっていた摘粒作業に注目し、対象となる農業者の作業風景を撮影し分析を行いました。



**【8月】重点課題
ピーマンセミナーの開催**

軽量で収益性の高い品目であるピーマン。この夏秋産地再構築を目指した、ピーマンセミナーを開催しました。

今後も、ピーマンの新規栽培者増加と早期安定生産に向けた取り組みを支援していきます。



**【8月】
若手農業者の活動支援**

千曲市内で主に生食ぶどうを栽培している青年農業者の勉強会として、会員の園地や、長野市内の先進農家の視察を実施しました。

今後も勉強会を継続し、情報提供・交流により、産地の技術力や品質向上を目指して支援を続けていきます。



【12月】

農村RMO構築の推進

農用地保全活動や農業を核として生活支援等の地域コミュニティを維持する取り組みを行う農村型の地域運営組織「農村RMO」。戸隠地区では、今年度よりRMO組織を構築するべく、ワークショップが開催され、地域の将来像についてアイデアを出し合いました。また、大岡地区は来年度の組織立ち上げを目指し、検討会を重ねています。



【2月】【重点課題】

**もも産地復興モデル事業
もも栽培セミナーの開催**

令和元年の台風19号で大きな被害を受けた須坂市福島地区。この福島地区のもも栽培を復興させるため、「もも栽培セミナー」を開催しました。受講生8名に対し、摘蕾、摘果、袋掛け等の主な作業の講義やせん定作業の実習を行いました。



【3月】

「里親研修調印式」を開催

里親研修の開始にあたり、コロナ渦で中止していた里親研修調印式を再開しました。

これにより研修生が地域に円滑に迎え入れられることを目的としています。

なお、令和6年度の研修生は5名で、須坂市、飯綱町で研修に入ります。